

令和6年度 白子川生物調査の概要

1 調査概要

① 調査地点及び調査日時等

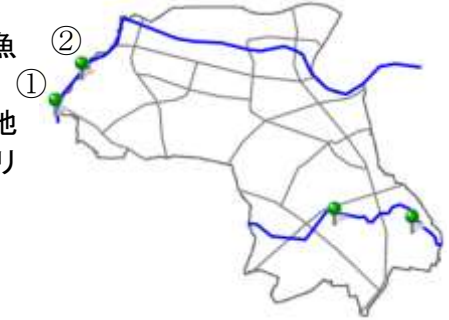
河川名	調査地点名	調査実施日	調査時間	気温(℃)	水温(℃)
白子川	①東埼橋上流付近	2024/8/1(木)	9:00～11:30	29.0	25.5
	②白藤橋付近	2024/8/1(木)	12:50～15:30	34.0	29.5

② 調査方法

各調査地点において投網、タモ網(手網)及びカゴ網を用いて、魚類、底生動物を採集した。

採集した個体は、現地で種の同定、個体の計測、写真撮影後、現地に再放流した。現地での同定が困難な個体については、10%ホルマリンで固定して持ち帰り、実体顕微鏡下で同定した。

なお、底生動物については、肉眼でみえる個体を採集対象とした。



調査状況写真



2 調査結果

① 河川状況

(1) 東埼橋上流付近

東埼橋直下に S 型の淵があり、更にその下流に高い落差工がある。増水によりかなり水位が上昇しなければこの落差を魚類が遡上することは困難と考えられる。淵の上流は水際が綱矢板等で護岸され、河床が布型枠等で護床されている。

カゴ網は子安橋の上・下流部で、やや淵状になっている2箇所に設置した。



(2) 白藤橋付近

河床はコンクリート張りであるが、白藤橋の下流約 100m の位置に土砂が堆積しており、浅い淵と瀬が形成されている。

カゴ網は白藤橋の下流のやや淵状になっている2箇所に設置した。



② 魚類調査結果

白子川の2地点全体では、ニホンウナギ、ドジョウ、ヌマチチブなど、5目7科13種の魚類が確認された。

出現種のうち、「環境省 RL2020」に該当する種として、絶滅危惧ⅠB類に該当するニホンウナギ、準絶滅危惧に該当するドジョウが確認された。

「東京都レッドデータブック(本土部)2023」では、これまでの「区部」、「北多摩」、「南多摩」、「西多摩」の4地域の区分による評価に加え、全国の他の道府県との比較を容易にするため、すべての分類群において本土部全体としての評価も行われた。

「東京都 RDB2023 区部」及び「東京都 RDB2023 本土部」の絶滅危惧ⅠA類(CR)に該当するドジョウ、シマヨシノボリ、絶滅危惧ⅠB類(EN)に該当するニホンウナギ、準絶滅危惧(NT)に該当するスミウキゴリ、留意種に該当するヌマチチブが確認された。また、「東京都 RDB2023 区部」の絶滅危惧Ⅱ類(VU)及び「東京都 RDB2023 本土部」の絶滅危惧ⅠB類(EN)に該当するトウヨシノボリ類、「東京都 RDB2023 区部」の絶滅危惧Ⅱ類(VU)及び「東京都 RDB2023 本土部」の準絶滅危惧(NT)に該当するヒガシシマドジョウが確認された。

外来種については、国外外来種に関する種は確認されなかったが、未評価ではあるが、国内外来種としてカワムツが確認された。

No.	目名	科名	種名	白子川		合計	環境省 RL2020	東京都 RDB2023		外来種
				① 東埼玉橋上 流付近	② 白藤橋 付近			区部	本土部	
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ		2	2	EN	EN	EN	
2	コイ目	コイ科	コイ(型不明)		12	12				
3			カワムツ	1		1				未評価※1
4			タモロコ	1	1	2				
5		ドジョウ科	ドジョウ	3		3	NT	CR	CR	
6			ヒガシシマドジョウ	3		3		VU	NT	
7	ボラ目	ボラ科	ボラ		10	10				
8	ダツ目	メダカ科	メダカ属※2	1	2	3				
9	スズキ目	スズキ科	スズキ		5	5				
10		ハゼ科	ヌマチチブ		10	10		留	留	
11			シマヨシノボリ	3	1	4		CR	CR	
12			トウヨシノボリ類	1		1		VU※3	EN※3	
13			スミウキゴリ	3		3		NT	NT	
計	5 目	7 科	13 種	種類数計	8	8	13	2	7	7
				個体数計	16	43	59			

注: 1. 種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省、2023)に従った。

2. 表中の※は、以下の通りである。

※1…未評価であるが国内外来生物。自然分布は静岡県以西。(参考文献: 中坊徹次編(2013) 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 東京.)

※2…飼育品種と思われる。

※3…トウヨシノボリで掲載。

③ 底生動物調査結果

白子川全体では、チリメンカワニナ、シマイシビル、カワリヌマエビ属、コオニヤンマなど、11目18科24種の底生動物が確認された。

出現種に、「環境省 RL2020」に該当している種はなかったが、「東京都 RDB2023 区部」及び「東京都

RDB2023 本土部」の留意種に該当する種として、テナガエビ及びモクズガニが確認された。

外来種については「条件付特定外来生物」と、「緊急対策外来種」に該当するアメリカザリガニが確認された。

No.	目	科	種名	白子川		環境省 RL 2020	東京都 RDB2023		外来種	
				① 東埼玉橋 上流付近	② 白藤橋 付近		区部	本土部		
1	新生腹足目	カワニナ科	カワニナ	2						
2			チリメンカワニナ	11						
3	マルスダレガイ目	シジミ科	シジミ属	8	1					
4	イトミミズ目	ミズミミズ科	エラミミズ	1						
5	ツリミミズ目	ツリミミズ科	ツリミミズ科	2						
6		フトミミズ科	フトミミズ属	4						
7		—	ツリミミズ目	1						
8	吻無蛭目	イシビル科	シマイシビル	5	5					
9	ワラジムシ目	ミズムシ科(甲)	ミズムシ(甲)	4	1					
10	エビ目	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	41	12					
11		テナガエビ科	テナガエビ		2		留	留		
12		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	5					条件付/ 緊急	
13		モクズガニ科	モクズガニ	3			留	留		
14	カゲロウ目 (蜉蝣目)	マダラカゲロウ科	エラブタマダラカゲロウ	2	2					
15		コカゲロウ科	サホコカゲロウ		1					
16			ウデマカリコカゲロウ	1	4					
17	トンボ目(蜻蛉目)	サナエトンボ科	コオニヤンマ	2	4					
18	トビケラ目 (毛翅目)	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ		2					
19			ウルマーシマトビケラ	1						
20		クダトビケラ科	クダトビケラ属		1					
21	ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	ガガンボ属	1	1					
22		ユスリカ科	ハダカユスリカ属		1					
23			ツヤユスリカ属		1					
24			ユスリカ亜科		1					
計	11 目	18 科	24 種	種類数計	17	15	0	2	2	1
				個体数計	94	39				

○「環境省 RL2020」: 環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020 年

○「東京都 RDB2023 区部」、「東京都 RDB2023 本土部」: 東京都レッドデータブック(本土部)2023

留意種(留): 現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、生息・生育条件の変化に伴う理由により、その動向に留意する必要があるもの(理由本文を要約)

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省に指定された種(2017)

条件付特定外来生物(条件付): 外来生物法に基づき特定外来生物に指定された生物のうち、通常の特定外来生物の規制の一部を、当分の間、適用除外とする(規制の一部がかからない)生物

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

緊急対策外来種(緊急): 対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある。

3 経年変化について

東埼玉橋上流付近の確認種は、経年的にスミウキゴリやトウヨシノボリ類が多く、次いでドジョウなどが確認されている。調査水域は水深が浅く、瀬や淵、寄州などの環境が少なく単調であるため、魚類にとっては生息環境が少ない地点で、確認種類数は、平成 22 年以前は 9 種、平成 23 年からは 3~6 種程度である。本年度はドジョウ、シマヨシノボリ、スミウキゴリのほか、前回調査で確認されなかったヒガシシマドジョウと、平成 29 年以降確認されなかったタモロコが再び確認された。また、カワムツが初めて確認された。メダカ属も初めて確認されたが、飼育品種と思われる。全体では 8 種の魚類が確認され、令和 4 年度に比べ種類数は増加したが、個体数は減少した。

白藤橋付近では、平成 22 年以前は 27 種、平成 23 年からはコイ、マルタ、アユ、ボラ、ヌマチチブなど 7～12 種が確認されており、本年度はコイ、ボラ、ヌマチチブなど、全体では 8 種の魚類が確認され、令和 4 年度に比べ種類数、個体数とも減少した。

この地点は砂泥や礫などの堆積があり、小規模ながら瀬、淵などの環境がある。廃棄された鉄パイプの中などにはニホンウナギが確認されている。また、この地点は感潮域でニホンウナギ、マルタ、アユ、スズキ、ボラ、スミウキゴリ、マハゼ、ヌマチチブなど汽水域に生息する魚種を中心に確認種類の多い地点である。本年度もニホンウナギ、ボラ、ヌマチチブなど汽水域に生息する種が確認されたが、マルタ、アユ、マハゼ、ウキゴリは確認されなかった。また、淡水魚であるオイカワ、アブラハヤ、モツゴも確認されなかった。しかしながら、前回調査で確認されなかったコイが再び確認されたほか、これまであまり確認されていなかったタモロコが、平成 29 年以来再び確認された。また、シマヨシノボリが初めて確認された。メダカ属も初めて確認されたが、飼育品種と思われる。

生息する種類や個体数の変動の要因としては、各調査地点とも河川構造が概ね単純な 3 面張り護岸となっており、近年多発するゲリラ豪雨等の急激な増水により河道が洗われてしまうため、大半の魚類が、下流に押し流されたり、逆に上流から流されて来たりすることによるものと考えられる。したがって、今後も魚類相の変化や個体数の変動について継続して把握することが必要であると考えられる。

魚類の経年調査結果

白子川①東埼橋上流付近

No.	目名	科名	種名	H14～22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R4	R6	環境省	東京都RDB2023		外来種		
																		区部	本土部			
1	コイ目	コイ科	フナ属（含金魚）	○																		
2			オイカワ	○															DD	DD		
3			カワムツ														1				未評価 ^{※4}	
4			アブラハヤ	○		3								1			3			NT	NT	
5			モツゴ	○																		
6			タモロコ	○				1				5						1				
7		ドジョウ科	ドジョウ	○	3	3	2	1	3	3	2	3	5	3	2	3		NT	CR	CR		
8			ヒガシシマドジョウ ^{※2}										1	1		3		VU	NT			
9	ダツ目	メダカ科	メダカ属													1 ^{※5}						
10	スズキ目	ハゼ科	シマヨシノボリ				2		2	2	6	2	2		8	3		CR	CR			
11			トウヨシノボリ類 ^{※3}	○	2	2	4	5		2	8	3	3		5	1		VU	EN			
12			ヨシノボリ属		1									1								
13			スミウキゴリ	○	3	4	9	4	9	9	15	10	13	14	13	3		NT	NT			
14			ウキゴリ	○															NT	NT		
3目 4科 種類数合計				9	4	4	5	3	4	5	4	4	6	5	5	8	1	8	8	1		

白子川②白藤橋付近

No.	目名	科名	種名	H14～22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R4	R6	環境省	東京都RDB2023			
																		区部	本土部	外来種	
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ*1	○	4	1		1	2	1		1	1	1	4	2	EN	EN	EN		
2	コイ目	コイ科	コイ（型不明）	○	20<	20<	20<	20<	20<	20<		20<	20<	10		12					
3				フナ属（含金魚）				1													
4				ダニオ亜科	○																
5				オイカワ	○	3										16			DD	DD	
6				アブラハヤ			1		2							2			NT	NT	
7				マルタ	○	16	2	7	2	4		100<				3			留	留	
8				モツゴ	○	1							5				1				
9				タモロコ	○		1						5					1			
10				ニゴイ			9									2				NT	NT
11	ナマズ目	ナマズ科	ナマズ							1											
12	サケ目	アユ科	アユ	○	112	520	19	100<	100<	100<	4		100<	100<	1						
13	ボラ目	ボラ科	ボラ	○	13	1	86		9	5	100<	100<	6	8	3	10					
14	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	○																特、重	
15	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ		1						4						VU	CR	CR		
16				メダカ属												2*5					
17	スズキ目	スズキ科	スズキ	○		1				5		3	1	3		5					
18		ハゼ科	マハゼ	○	3	2	4	1		2	5	100<	1	2	2						
19				ヌマチチブ	○	111	9	12	100<	100<	100<	100<	100<	39	47	10			留	留	
20				チチブ属	○																
21				シマヨシノボリ													1		CR	CR	
22				トウヨシノボリ類*3	○				2			8							VU	EN	
23				ヨシノボリ属	○																
24				スミウキゴリ	○		3	1	9	1		1	6						NT	NT	
25				ウキゴリ	○		5					1	2	1		3			NT	NT	
26				ウキゴリ属	○																
27			タイワンドジョウ科	カムルチー									1								
		8目	9科	種類数合計	27	11	12	9	9	7	8	11	8	9	8	10	8	2	11	11	1

○:過去調査において出現の記録があり。 H23 年以降の数値は確認個体数

*1)過年度調査ではウナギとして記載あり

*2)過年度調査ではシマドジョウとして記載あり

*3)トウヨシノボリ類の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2023」に従った。過年度調査ではトウヨシノボリ、旧トウヨシノボリ類として記載あり

*4)未評価であるが国内外来生物。自然分布は静岡県以西。(参考文献:中坊徹次編(2013)日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 東京.)

*5)飼育品種と思われる。

環境省:「環境省 RL2020」:環境省レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020 年

EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧

東京都:「東京都 RDB2023 区部」、「東京都 RDB2023 本土部」:東京都レッドデータブック(本土部)2023

CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

・外来種は、以下に従った。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省. に指定された種(2017)

特:特定外来生物:外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

重:重点対策外来種 甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い。

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2023」に従った

採取生物写真

	
ニホンウナギ	コイ(型不明)
	
カワムツ	タモロコ



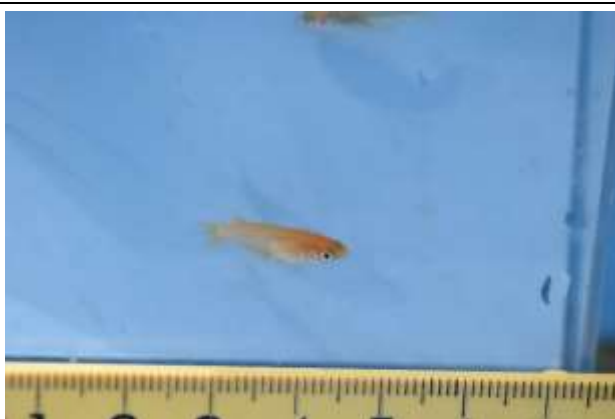
ドジョウ



ヒガシシマドジョウ



メダカ属



メダカ属



スズキ



ヌマチチブ



シマヨシノボリ



スミウキゴリ

	
チリメンカワニナ	シジミ属
	
カワリヌマエビ属	テナガエビ
	
コオニヤンマ	モクズガニ

問い合わせ先：板橋区資源環境部環境政策課自然環境保全係

電話：03-3579-2593